

## イエス様がなされた最初のしるし

21一行はカファルナウムに着いた。イエス様は、安息日に会堂に入って教え始められた。22人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。23 そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。24「ナザレのイエス、かまわな  
いでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」25イエス様が、「黙れ。こ  
の人から出て行け」とお叱りになると、26汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて  
出て行った。27人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい  
教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」28イエス様の評判は、たちまちガリラ  
ヤ地方の隅々にまで広まった。(マルコ1:21-28)

マルコ福音が伝えているイエス様が人々の前で最初になされたしるしは、悪霊を人か  
ら追い出すことでした。イエス様は、悪霊に向かって「黙れ、この人から出て行け」  
とお叱りになります。イエス様は人間の生活のあらゆる場から悪霊を追い出し、神の  
国（神の支配）を実現するためにこの世に来られました。イエス様は公生活を始めら  
れる時、荒れ野に退かれ心の準備をされました。その時、イエス様の心に誘惑を働き  
かけたのも悪霊でした。悪霊もイエス様に挑戦します。イエス様も戦われ、立ち向か  
われた悪霊が存在するなら、私たちもやはりその悪霊の影響を受けているでしょう。  
悪霊は私たちを神様から引き離すために働きます。私たちから神様の存在を切り離し、  
忘れさせていきます。

私たちが人生を通して戦わなければならないのは、この悪霊の働きに対してです。自  
分にとって悪霊はどのように働きかけているのだろうか。自分はどのような時、悪霊  
の影響を受けてしまうだろうか。そのようなことを一つひとつ思っていくことも大事  
です。悪霊の一番の狙いが、私たちが神様とつながることがないようにすることであ  
れば、悪霊に対しての一番の防御は、私たちがいつもどんな時でも、神様とコミュニ  
ケーションをとることです。心を通して神様に何でも伝えていく、何でも話していく。  
せっかく聖堂を訪れたのであれば、神様と心の対話をするための時間を持つ。そのよ  
うな神様とのつながりの中で、自分が果たすべきこと、大事にすべきことが見出せる  
と思います。

イエス様は神の子として力ある業を人々の前でなさいました。その多くは病人のいや  
し、苦しんでいる人々を力づけ、その人々が天の父に向かって歩むことへ導かれるこ  
とでした。同時にイエス様が人間の内に働く汚れた霊、悪霊に対して立ち向かわれた  
ことも忘れてはいけません。イエス様の使命は神に反する霊に対して毅然と立ち向か  
うことでした。現代という時を生きている私たちもやはりこの悪霊の影響を受けてい  
ます。わたしたちの周りにも「神と人、人と人との関係を引き裂いていく、目に見え  
ない大きな力」が働いていると感じることがあります。神様のことを忘れさせ、同時

に人間同士の絆も弱めていく。それぞれが自分中心になり、人の苦しみや痛みに関心になっていく。そして愛の心が弱められていく。これらすべて、悪霊がこの世にもたらそうとしている愛に反するものの姿ではないでしょうか。私たちは聖霊と悪霊の働きをよく見分け、悪霊ではなく聖霊に聞き従うことが求められます。そして私たちを真の幸せに導いてくださるのは、悪霊ではなく聖霊の働きによります。よく識別という言葉を使いますが、それは聖霊と悪霊に働きを見分けてゆくことです。そしてよく識別ができるために、自分の中の心の感情に気づいていくことが大事です。たとえば、私たちを落ち込ませるような働きは聖霊ではなく、悪霊の働きです。聖霊はいつも私たちを励まし、勇気づけてくださる働きをされます。同時に、聖霊は時に私たちをいましめ、何か大切なことに気づかせるために、きびしく働かれることもあるかもしれません。でも人を落ち込ませるような働き方は決してなさらないでしょう。悪霊の働きの特徴は、私たちを神様から引き離そうとすること、神様の存在を忘れさせようと働くということです。悪いことでも、これくらい大したことない、誰でもやっている、まじめに生きることはばかばかしいなど、いろいろなかたちで、またその人の弱い点をよく知って、上手に私たちを神様と反対の方へ導こうとします。また疲れすぎたり、気力の減退、また過度の緊張は、聖霊ではなく悪霊と合わさった行動の結果だと言えるでしょう。

中々、瞬間、瞬間に明確に聖霊と悪霊の働きを見分け識別するというようなことはできないかもしれません。でも後から自分の取った行動や、後に残った心の余韻などを丁寧に振り返っていくと、自分はどちらの霊の働きに聞き従っていたのかが見えてくるようになります。出来事の後で、自分の心の中に落ち着きや喜び、心が満たされている感じが余韻として残るなら、それは聖霊に聴き従うことができたしるしでしょう。そしてそのような行動を大事にしていく。何かを選ばなければならないとき、後からやはりあれでよかったんだ、あの選びがきっと聖霊が導いてくださった方だったんだと思えるような選びを大切にしていく。

私たちがこの世を歩む限り、私たちの生活から悪霊の働きが無くなることはないでしょう。世の終わりの時まで悪霊は何とか私たちを神様から引き離そうと働き続けるでしょう。だから祈らなければなりません。聖霊が注がれ私たちがいつも聖霊で満たされて歩むことができるように聖霊の助けを祈り続ける。現代という時代の中で悪霊がどう働いているか、どのように私たちを神様から引き離そうとしているか、そのことを落ち着いて見つめることが大事です。そして、私たちが悪霊ではなく、聖霊の働き、呼びかけに気づいて、そしてその働きに自分を合わせていくことを通して心の中が満たされていくことを願っています。この心の中が聖霊で満たされていくことこそ、本当の意味での安息になるのだと思います。